

全国訪問のおはなし隊 市場小に訪問
おはなしキャラバンカーがやってきた!

約550冊の絵本や児童書を積んだキャラバンカーで全国を回り、読み聞かせの輪を広げている講談社の「全国訪問おはなし隊」。5月11日に市場小の1,2年生を対象に青空の下での読書や、隊長と読み聞かせボランティア「れるの会」による絵本や紙芝居のおはなし会を行いました。普段とは違う環境で多くの本に触れた児童は、目を輝かせながら読書の世界に夢中になりました。



↑車からお気に入りの絵本を見つけて、思い思いにページをめくる市場小1年生。

↓江戸時代に広まったといわれる「甘茶かけ」を体験する上野保育園の園児たち。



興国寺花まつり
甘茶で祝福 受け継がれる和の心

お釈迦さまの生誕を祝う「花まつり」が5月8日に興国寺(上野)で行われました。季節の草花で飾られた花御堂内の釈迦像に、釈迦の生誕時に甘露が降ったという伝説にちなんで「甘茶」を注ぎ祝う祭事です。訪れた上野保育園の園児は、参拝者や門徒に教えてもらいながら無病息災を願って甘茶かけを体験。伝統行事は、今日も地域で大人から子どもへ継承されています。

定禅寺の藤まつり
満開の町花フジ 多くの人を「歓迎」

初夏を思わせる陽気の4月29日、「藤寺」の愛称で親しまれる定禅寺で、毎年恒例の藤まつりが開かれました。10万本の薄紫色の花房が約800平方メートルの境内を滝のように彩り、甘い香りを漂わせながら多くの来場者を魅了。僧による尺八の演奏やお神酒による藤供養が行われ、樹齢500年以上の貴重な県指定天然記念物「迎接の藤」の、さらなる延命が願われました。



↑祭り当日に満開を迎え、多くの来場者に見守られながら厳かに営まれる藤供養。

↓県内各地の20団体が出展する中でも、ひときわ目を引き大盛況の福智ブース。



福岡いっしょんたくり たちからいち
子どもにも大人気の福智ブランド

県内各地から、特産品などの宝が集まる「福岡いっしょんたくりたちからいち」が5月10日に筑前町で開催されました。福智町からは、地元の食材を使った「方城すいとん」100杯と「ふくち☆リッチジェラート」300個を出展。初夏の陽気となったこの日は、特にジェラートが昼には完売するほど大盛況で、福智自慢の「宝」を県内外からの来場者にしっかりとPRしました。

↓激戦を終えた国内外トップクラスの選手たちに心を込めたおもてなしを行い、笑顔で選手を見送る参加者。



国際車いすテニス大会 国際交歓会
福智でつなぐ世界の輪

平成3年に旧金田町とカナダの選手の交流をきっかけに始まった国際交歓会が、今年も5月16日に金田体育館で行われました。飯塚国際車いすテニス大会出場の数カ国のプレーヤーやサポーターを、福智ならではのおもてなしで毎年歓迎しています。今年は上野小・方城中による生演奏、町郷土芸能保存会による獅子舞、芳龍会による博多おどり、福智炎運太鼓による和太鼓演奏を披露。福智名物をはじめとした数々の食事を囲んで楽しいひとときを過ごしながら交流を深め、会場全員での炭坑節で締めくくりました。

第42回上野焼春の陶器まつり
上野焼 今年は桜をモチーフに

上野焼協同組合と13の窯元による「上野焼春の陶器まつり」が4月24日から3日間、上野の里ふれあい交流会館と各窯元で開催され、約6500人の陶芸ファンが訪れました。陶芸館では、各窯元の茶わんや皿など計約3000点を展示し、通常の2割引きで販売。今年は「桜」をテーマにした桜柄や桜色の作品が多数並び、来場者はお気に入りの器を買い求めました。



↑この日限定の掘り出し物や新作の器などを、手に取りながら品定めする来場者。

↓地域の大人たちに温かく見守られながら、堂々と伝統の舞を奉納する稚児たち。



南木菅原神社神幸祭
地域の絆を深める伝統の舞

5月2、3日に恒例の南木菅原神社神幸祭が行われました。雄獅子と雌獅子が笛や太鼓の楽に合わせて舞い、その周りを華やかな衣装を身にまとった地域の子ども12人が、順に太鼓の音を力強く響かせながら舞を奉納。豊作を祈り明治初年に始まったこの祭りは、今もなお地域に代々受け継がれており、南木地区の人々の絆を深める大切な伝統行事として守り抜かれています。